

## エゾマツカサガ (別名 エゾマツカサハマキ)

エゾマツやアカエゾマツの松ぼっくりの髓を食べるイモムシ (幼虫)。最大長約10mm。頭は黄色。体は細長く、黄白色。イボ状の脚 (腹脚) は不明瞭。

【学名】 *Cidia strobilella*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道；北半球に広く分布。

### 【生態】

宿主：トウヒ属の球果。国外ではモミ属やマツ属の球果への寄生も観察されている。

年1世代または2年1世代。幼虫越冬。成虫は5～6月に出現。卵から孵った幼虫は球果の髓部に潜る。10月頃には十分成長し、そのまま越冬する。大部分は翌春に球果内で蛹になるが、一部は幼虫のままもう一度冬を越してから蛹になる。

### 【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾマツカサガ hamaki/ezokasa/  
kaisetv.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/12/24.